

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

①目標の改善

- ・音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定し、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。
- ・資質・能力の育成に当たっては、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、学習活動に取り組めるようにする必要があることを示した。このことによって、児童が教科としての音楽を学ぶ意味を明確にした。
- ・音楽科では、この目標を実現することによって、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わることのできる人を育てること、そのことによって心豊かな生活を営むことのできる人を育てること、ひいては、心豊かな生活を営むことのできる社会の実現に寄与することを目指すしている。

②音楽科において育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについての理解、音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通じた理解 など ・自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを</u>感じ取りながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力 など ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを</u>感じ取りながら、知識を得たり活用したりして、楽曲や演奏のよさなどを考え味わい、自分にとっての音楽のよさなどを見いだす力 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム感、旋律感など音楽の特性を感じ取る感性 ・協働して音楽活動する喜びの実感 ・音楽の学習に主体的に取り組む態度 ・音楽を愛好する心情 ・生活の中の様々な音や音楽への気付き ・音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度 ・我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にする態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

※下線部は、現行の学習指導要領で示している〔共通事項〕と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図った。
- ◇音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める学習の充実を図った。
- ◇我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図った。

②見方・考え方について

- ◇音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」である。
- ◇音楽的な見方・考え方は、音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方であり、音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである。

見方・考え方が働いているかどうか、「深い学び」の鍵となります。



③内容の構成

内容の構成		
	項目	事項
領域	A 表現 (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 歌唱分野における「知識」 ウ 歌唱分野における「技能」
	(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 器楽分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 器楽分野における「知識」 ウ 器楽分野における「技能」
	(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 音楽づくり分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 音楽づくり分野における「知識」 ウ 音楽づくり分野における「技能」
B 鑑賞	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞領域における「思考力、判断力、表現力等」 イ 鑑賞領域における「知識」
[共通事項]	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる「思考力、判断力、表現力等」 イ 表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる「知識」

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の各事項の指導と併せて、十分な指導を行うことが大切です。児童の発達段階や指導のねらいに応じて、その都度繰り返し指導し、6年間を見通した学習を進めていきます。



〔共通事項〕のくわしい内容は以下のとおりです。

- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。(思考力、判断力、表現力等)
- イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。(知識)

④主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- ◇ 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。
- ◇ 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図る。
- ◇ 音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。

「主体的な学び」の視点(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かす活動を取り入れるなどして、児童が音楽のよさなどを感じ取れるようにし、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付かせているか。 ・ イメージや気持ちの変化を喚起させる要因となった音楽的な特徴に気付かせ、表したい音楽表現や音楽のよさなどを見いだし見通しをもたせているか。 ・ 工夫して音楽で表現したり、音楽のよさなどを見いだし味わって聴いたりする過程でもったイメージや気持ちの変化を振り返り、音や音楽が自分の気持ちにどのような影響を及ぼしたのかを考えさせ、学んでいること、学んだことの意味や価値に気付かせているか。
「対話的な学び」の視点(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。 ・ 他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりする過程において、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに交流し、音楽の構造について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動を取り入れているか。
「深い学び」の視点(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が音や音楽に出会う場面を大切に、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、一人一人が音楽と主体的に関わる中で、聴き取ったことと感じ取ったことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、音楽との一体感を味わったり、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付け、思考・判断を促しているか。 ・ 表現領域の学習では、思考、判断の過程との関連を図りながら、自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能を習得・活用できるようにしているか。

⑤移行措置について

- ◇ 平成30年度及び平成31年度の第1学年から第6学年までの音楽の指導に当たっては、現行小学校学習指導要領第2章第6節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新小学校学習指導要領第2章第6節によることができる。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

適宜、〔共通事項〕を要として、各領域や分野の関連を図った指導計画を工夫することにより、学習が充実します。また、表現及び鑑賞の学習の中で、児童が音楽に対する感性を働かせ、「音楽を形づくっている要素」を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるようにし、そのことを表現及び鑑賞の各活動に生かすよう十分な指導を行うことが大切です。指導に当たっては、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、効果的な指導の手立てを工夫することが重要です。



(1) 題材名「曲想を味わおう」(全7時間)(第6学年)

(2) 題材のねらい

- 歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫し、旋律の特徴や重なり方を生かして歌ったり、パートの役割にふさわしい楽器や演奏の仕方演奏したりする。
- 曲想とその変化を感じ取りながら、旋律の特徴、反復や変化、強弱や速度などによる楽曲の構造を理解して聴く。

	旋律	強弱	音の重なり
〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素についての学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の動きを感じ取り、それを生かした歌い方を工夫する。 ・旋律の反復や変化に注目して楽曲を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や旋律、リズムの特徴から強弱を考え、曲想にふさわしい表現にする。 ・強弱に注目して曲を聴き、楽曲の特徴を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の重なり方のちがいを意識して歌い方を工夫する。 ・パートの役割や全体の音の重なりを意識して合奏する。



(3) 題材の指導計画

	主な学習活動	教師の働きかけ
第一次 (3) (本時2/3)	【ねらい】歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し、思いや意図をもって「広い空の下で」を歌う。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞を読んだり範唱を聴いたりして曲の感じをつかむ。 ○歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ○曲全体の構成を考えながら、歌詞の内容や曲想を生かした表現で歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容と自分たちの学校生活とを結びつけながら聴くよう助言する。 ・旋律の音の動きや重なりについて、楽譜と照らし合わせながら全員で確かめるようにする。 ・前時に見つけた旋律の音の動きや重なり方を確認する。 ・話合いに終始せず、実際に歌って確かめるように助言する。 ・これまで学習してきた「歌詞の内容に合った歌い方」や「旋律の音の動きや重なりと強弱との関係」が意識できるよう、使った拡大楽譜や表現の工夫を掲示しておく。
第二次 (1)	【ねらい】音楽を形づくっている要素のかかわり合いが生み出す曲想の変化を感じ取りながら、「ハンガリー舞曲 第5番」を味わって聴く。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律の反復や変化に気をつけて聴く。 ○速度や強弱、旋律の変化が生み出す曲想を感じ取って聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律の特徴を捉えるために、教科書の図形楽譜を活用する。 ・主な旋律を口ずさんだり、指揮のまねをしたりしながら聴くことによって、速度や強弱、旋律の変化に気付くようにする。
第三次 (3)	【ねらい】旋律の反復や曲想の変化などの特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって「風を切って」を演奏する。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○楽曲全体の感じをつかんで歌詞唱する。 ○各パートの特徴や役割を考え、楽器を選んで演奏する。 ○曲想にふさわしい表現を工夫する。 ○曲想を生かした表現で合奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を読んで情景を想像したり、作曲者が曲にこめた意図を読み取ったりしながら聴くよう働きかける。 ・各パートの特徴や楽器の特徴を確認して、それぞれのパートに適した楽器を選択できるようにする。 ・楽器の組み合わせ、強弱、速度にしぼって表現を工夫することを確認する。 ・演奏の工夫への思いや意図が友達に伝わるように、演奏の構成図を拡大し、具体的に説明できるようにする。

(4) 授業展開例

①本時の目標 旋律の音の動きや重なりを意識しながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現の仕方について、思いや意図をもつ。

②学習の展開

学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	・支援 ◆評価 ※手立て
<p>1 前時の学習をふり返り、「広い空の下で」を歌い、本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="256 472 507 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ①魅力的な課題・教材の提示</p> </div>	<p>○歌詞の内容を思い描きながら、気持ちをこめて歌おう。 ・友達との出会いは宝物だな。 ・友達といっしょにいる喜びが感じられるよ。</p> <div data-bbox="528 472 983 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童にとって親しみやすい内容の歌詞や旋律の教材を選ぶことで、学習への意欲を高め、主体的な学びにつなげています。</p> </div>	<p>・歌詞に込められた意味を考えながら歌うことによって、本時のねらいへの方向付けを行う。</p> <div data-bbox="1018 421 1310 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>歌詞の内容も曲想を生み出す重要な要素となっていることを児童自らが理解するよう、指導を工夫することが大切です。</p> </div> 
<p>歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫しよう。</p>		
<p>2 歌詞の内容や曲想を生かした表現の工夫をグループで考える。 ・それぞれが考えた工夫を伝え合う。</p> <div data-bbox="256 875 507 994" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実</p> </div>	<p>○歌詞の内容や曲想を生かした表現にするには、どんな工夫があるとよいだろう。 ・旋律がなめらかに動く前半部分は、ゆったりとした気持ちで柔らかい声を出すといいと思う。 ・さわやかであたたかい歌詞だから、表情も明るく歌いたいな。 ・「すてきなドラマ」に向かって旋律が盛り上がっているから、だんだん強く歌ったらどうかな。</p>	<p>・前時に見つけた旋律の音の動きや重なり方に注目して考えるよう助言する。 ・曲の山の「すてきなドラマ」に向かって、どのように歌いたいかを考えるようにする。また、なぜそう考えたのか理由も伝えることを確認する。 ・前時話し合った曲にこめられた思いも大切にしよう助言する。</p>
<p>客観的な理由や根拠を基に友達と交流し、自分の考えをもち、学習を深めていく対話的な学習が重要です。ここでは特に、曲想、歌詞、旋律、強弱、音の重なりに重点を置いて、前時の学習を生かして考えるよう指導を工夫しています。</p>		
<p>・歌で確かめながらグループの表現を仕上げていく。</p> <div data-bbox="256 1205 507 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ②体験的な学習の充実</p> </div>	<p>・上と下のパートに分かれるところで、それぞれがもっと息をそろえて出だしをはっきりさせた方が、盛り上がりやすいと思うよ。試してみようよ。</p>	<p>・話合いに終始せず歌って確かめながら考えるよう助言する。</p> 
<p>個別の知識の習得や技能の機械的な訓練にならないようにするために、音楽活動を通して学ぶことが大切です。</p>		
<div data-bbox="256 1559 507 1641" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実</p> </div>	<p>・下のパートをだんだん強く歌ったら、上のパートにも勢いが出てきて盛り上がったから、この工夫を入れよう。 ・曲の山に向けて上と下のパートの音の動きが変化して、音が重なり高くなっていきなりして盛り上がっていくね。これを生かしてだんだん強く歌うことで曲のメッセージを伝えよう。</p>	<p>◆旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し、どのように歌うかについて、思いや意図をもっている。【創意工夫】(演奏聴取・発言内容・ワークシート) ※旋律の音の動きの変化や重なり方のちがいが分かるように、掲示を示して確認する。</p>
<p>一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽を形づくっている要素の働きを捉え、表したい音楽のイメージを膨らませながら、どのように表現するかについて自分の考えをもって意見交換したり、実際に表現したりして、思いや意図をもてるようにしています。</p>		
<p>3 グループで伝え合ったことを全体で共有し、学習のまとめをする。 ・共有した表現の工夫を取り入れて、1番を歌う。</p>	<p>○考えた工夫を伝え合い、歌詞の内容や曲想を生かしたものになっているか意識して歌おう。 ・音が高くなっていく後半を段階的に強くしたことで、歌詞の意味もはっきりと伝わって、大きな喜びが感じられるなあ。 ・それぞれのパートの出だしの息をそろえるという工夫と、言葉をはっきりさせるという工夫を合わせたら、気持ちをのせて歌いやすくなったよ。</p>	<p>・どのような意図で工夫したのかを伝え合うだけでなく、全員で歌って試すことによって、どのように歌うかについての思いや意図を膨らませる。 ・考えた工夫が歌詞の内容や曲想を生かしていると感じ取りながら歌うように助言する。 ・次時は、最後の「ともに歌おう」をどのように歌いたいか考え、完成させることを予告する。</p>

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

①目標の改善

- ・音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定し、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。
- ・資質・能力の育成に当たっては、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習活動に取り組めるようにする必要があることを示すことによって、教科としての音楽を学ぶ意味を一層明確にした。

②音楽科において育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性などの音楽文化について理解することや、<u>音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること</u> など ・自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けること など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知識、それらの働きが生み出す特質や雰囲気</u>を感受しながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図を生み出すこと など ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知識、それらの働きが生み出す特質や雰囲気</u>を感受しながら、知識を得たり活用したりして、音楽を自分なりに解釈したり、音楽と人々の暮らしなどとの関連から音楽を捉えたり、自分にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を生み出すこと など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性 ・協働して音楽活動する喜びの自覚 ・音楽の学習に主体的に取り組む態度 ・音楽を愛好する心情 ・音環境への関心 ・音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度 ・我が国の音楽文化への愛着や諸外国の様々な音楽に関わる態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

※下線部は、現行の学習指導要領で示している〔共通事項〕と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図った。
- ◇音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習の充実を図った。
- ◇我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、指導の充実を図った。

②見方・考え方について

- ◇音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」である。
- ◇音楽的な見方・考え方は、音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方であり、音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである。

見方・考え方が働いているかどうか、「深い学び」の鍵となります。



③内容の構成

内容の構成		
領域	項目	事項
A 表現	(1)歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 歌唱分野における「知識」 ウ 歌唱分野における「技能」
	(2)器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 器楽分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 器楽分野における「知識」 ウ 器楽分野における「技能」
	(3)創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 創作分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 創作分野における「知識」 ウ 創作分野における「技能」
B 鑑賞	(1)鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞領域における「思考力、判断力、表現力等」 イ 鑑賞領域における「知識」
[共通事項]	(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる「思考力、判断力、表現力等」 イ 表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる「知識」

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して指導することが大切です。歌唱や鑑賞の学習のみに偏ったり、特定の曲種の学習に偏ったりしないように留意しましょう。

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の活動と切り離して単独で指導するものではないことに、十分留意する必要があります。



〔共通事項〕の内容は以下のとおりです。

- ア 音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、その関わりについて考える、表現及び鑑賞の学習において必要となる「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力
- イ 用語や記号などを理解する、表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる「知識」に関する資質・能力

④主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- ◇題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。
- ◇音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図る。
- ◇音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。

「主体的な学び」の視点(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させ、その要因となった音楽的な特徴を探ったり、楽曲の背景との関わりを考えたりさせ、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさなどを見いだすことに関する見通しをもたせているか。 ・音楽を表現したり、聴いたりする過程でもったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えさせ、学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚させているか。
「対話的な学び」の視点(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。 ・一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする学習となっているか。
「深い学び」の視点(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わり、知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、音楽を形づくっている要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感する活動を適切に位置付け、思考・判断を促し、深めているか。 ・表現領域の学習では、思考・判断の過程との関連を図りながら、自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を習得・活用できるようにしているか。

⑤移行措置について

- ◇平成30年度から平成32年度までの第1学年から第3学年までの音楽の指導に当たっては、現行中学校学習指導要領第2章第5節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新中学校学習指導要領第2章第5節の規定によることができる。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

教科及び学年の目標を実現していくためには、必要に応じて〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図った指導計画を作成するようにします。各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮することが大切です。指導に当たっては、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることができるような場面設定や発問など、効果的な手立てを講ずる必要があります。



(1) 題材名「箏の音色や音階の特徴を生かして、日本のよさを伝える旋律をつくろう」 (全5時間)(第2学年)

(2) 題材のねらい

- 音階や箏の音色の特徴に関心を持ち、日本のよさを伝えるための旋律をつくる学習に主体的に取り組む。
- 音階や箏の音色、リズム等を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、箏で表現したいイメージを持ち、どのように日本のよさを伝える旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。
- 音階や楽器の音色の特徴、イメージにふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、日本のよさを伝える旋律をつくる。

〔共通事項〕 音楽を形づく っている要素 についての学 習内容	音色	旋律	速度
	箏の奏法による様々な音色やそれらの組み合わせや変化などが生み出す響きを生かして旋律を工夫する。	平調子の音階のよさや美しさを感じて旋律をつくり、どのように演奏するかについて思いや意図をもって	イメージにふさわしい音楽表現となるように、速度の設定、保持や変化、緩急の対比などを工夫して演奏する。

(3) 題材の指導計画

		○主な学習活動
第1・2時	ねらい	・箏の音色や音階を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、音色や奏法に関心をもって演奏に取り組む。 ・イメージにふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏する。
		○箏の音色や雰囲気を感じ取って「さくら」を演奏する。 ・箏の基礎的知識や奏法、楽譜の読み方などを確認する。 ・箏固有の美しい音色が響くように演奏方法を工夫する。 ○「荒城の月」を歌いながら演奏する。 ・押し手(強押し)の奏法に気をつけて演奏する。 ・美しい音色が響くように奏法を工夫するとともに、大きな声で弾き歌いをする。 ○箏の読譜に慣れる。 ・順次進行、跳躍進行なども含めた、様々なリズムパターンを練習する。
第3・4時	ねらい	・平調子の音階や箏の音色から喚起されたイメージをもとに、平調子の音階や箏の音色の特徴を生かし、表現したいイメージにふさわしい旋律をつくる。
		○平調子の音階や箏の音色からイメージを膨らませ、日本のよさを伝えるテーマを決める。 ・様々な言葉の中から自己のイメージを膨らませ、班で意見交換をしてテーマを決める。 ○日本のよさを伝えるためのテーマに合わせて、まとまりのある旋律をつくる。 ・3つの条件の中で、平調子の音階や箏の音色の特徴を生かした旋律づくりをする。 ・順次進行と跳躍進行について知り、イメージの違いを感じ取る。 ・班で明確なイメージを持ち、音のつながり方や反復、変化、強弱などを工夫する。 ・創作した旋律を聴き合い、互いのよさを認め合いながらアドバイスをすることで、よりまとまりのある旋律になるように発展させる。
第5時(本時)	ねらい	・箏の基礎的な奏法や読譜の仕方を身に付けて、箏の音色や奏法、旋律などの特徴を生かした旋律をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
		○箏の音色や音階の特徴を生かして、日本のよさを伝える旋律を演奏し、それぞれの旋律のよさやアドバイスを伝え合う。 ・旋律づくりで工夫した点や演奏する上での思いや意図などを説明し、箏の音色や奏法、旋律などの特徴を生かしてイメージにふさわしい演奏をする。 ・各班の演奏を聴いて感じたことを、音楽を形づくっている要素と結びつけながら根拠をもってワークシートに記入し、発表する。

(4) 授業展開例

①本時の目標 箏の基礎的な奏法や読譜の仕方を身に付けて、箏の音色や奏法、旋律などの特徴を生かした旋律をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

②学習の展開

学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点 ◆評価 ※手立て
1 二人組で交代しながら既習曲を演奏する。 ・「さくら」 ・「荒城の月」	○どんなことに気をつけると、箏の音色を生かした演奏になるだろう。 ・音色を響かせるために、姿勢や手の構えに気を付けよう。 ・手の構えがきれいだったよ。	・箏の基本的な奏法を確認するために、模範的な手の構えや姿勢をテレビで映したり、よい生徒を紹介したりする。 ・ペアで感想を伝え合うなど、常に協働的な学びを意識する。
箏の音色や音階の特徴を生かして、日本のよさを伝える旋律をもっと工夫しよう。		
2 本時のめあてを確認する。 【10の視点】 ②体験的な学習の充実	○日本のよさのイメージにふさわしい音楽表現になっているか、確かめよう。 ・静けさを出すためにゆっくりとした速さで演奏しよう。 ・反復と強弱の緩やかな変化によって穏やかな景色が伝わるようにしよう。	・工夫した点をグループで確認してから、テーマのイメージにふさわしい音楽表現になっているか、実際に演奏して確かめるよう助言する。
音を出し、それを聴くことを通して、音楽を形づくっている要素について実感を伴いながら理解できるようにすることが大切です。		
3 班ごとにつくった作品を発表し、意見交換する。 【10の視点】 ④思考の整理 ⑤説明・発表の機会の充実	○箏の音色や音階の特徴を生かして、イメージが伝わるように発表しよう。 ・和の雰囲気を出すためにテンポを遅くしたり、長い音を使ったりしてゆったりした感じが出るようにした。 ・花火がはじけるイメージを出すために跳躍進行や高い音を使って、楽しい雰囲気にした。 ○各班の演奏を聴き、感じたことをワークシートにまとめて発表しよう。 ・反復が使われていたので旋律が印象に残った。 ・強弱の変化で、盛り上がる感じがした。奏法も変えていた。	・楽譜や工夫した点を拡大掲示することで、旋律や班員の思いを視覚化し、全員で工夫点を共有できるようにする。 ・音楽を形づくっている要素と曲想、奏法の関わりに気付くことができるよう板書で整理する。 ・「音楽の素（音楽を形づくっている要素）」を掲示し、要素を意識させておく。
生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて聴いて気付いたことを、音楽的な特徴に関わることと曲想に関わることに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わりについて考えたり、これらに関わる新たな知識・技能や楽器に関わる新たな知識・技能を得たり、これらと考えたこととを関連付けたり組み合わせたりすることが大切です。		
【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実	・テンポがゆったりとしていてテーマのイメージとよく合っていた。最後の音程を変えるとまとまると思う。 ・順次進行が使われていたのでだんだん盛り上がる感じが伝わってきた。より響くように奏法を工夫すると、もっとイメージが伝わると思う。 ・長くて低い音をたくさん使って余韻を楽しむようにしているから、お寺の鐘のイメージに合っている。箏の音色の美しさも生かされているな。	・再度演奏を聴くことによって、実感を伴った話し合いにする。 ◆表現したいイメージをもち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。【創意工夫】(観察・発言・ワークシート) ※平調子の音階や箏の音色の特徴、リズムや反復、変化などの構成について着目できるように、板書や「音楽の素」の掲示を手がかりにするよう助言する。
生徒一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて知覚・感受したことを言葉で表したり比較したり関連付けたりする学習過程を行き来しながら、音楽を形づくっている要素の働きを捉え、その働きと自分の感情の変化との関わりについて根拠をもって意見交換し、器楽表現に対する思いや意図をもてるようにすることが、深い学びにつながります。		
4 本時の学習のまとめをする。	○箏の音色や音階の特徴などを生かした旋律の工夫によって、イメージが伝わったかふり返ろう。	・この学習を生かして学校をPRする旋律を創作していくことを伝え、次の学習の見通しをもたせる。